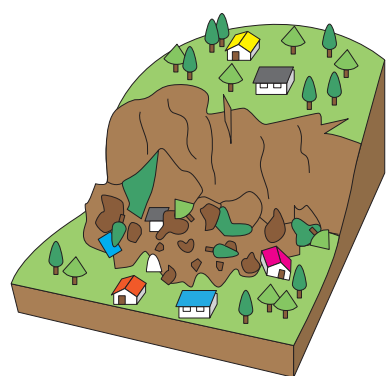


土砂災害について

大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ土石流やがけ崩れ、地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。また、土砂災害には前兆現象があります。前兆現象を感じたら速やかに避難するようにしましょう。

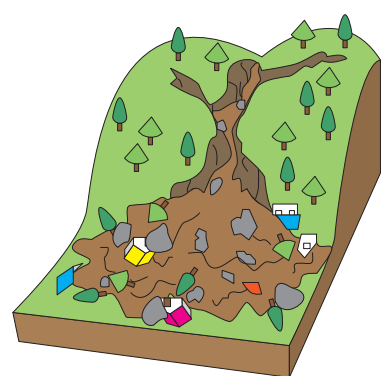
土砂災害の種類と前兆現象

がけ崩れ



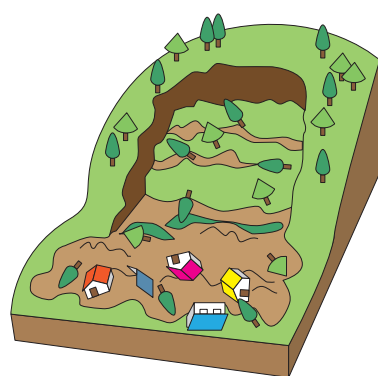
突発的かつ短時間で起こる
がけ崩れとは、地中にしみ込んだ水が地盤を弱め、雨や地震などによって急激に斜面が崩れ落ちることです。

土石流



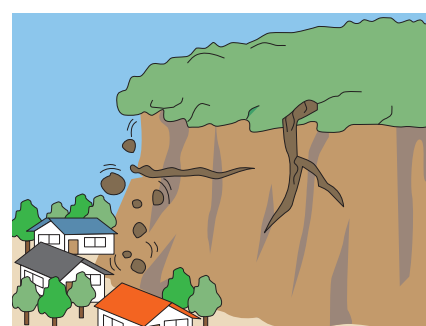
破壊力が大きく、速度が速い
土石流とは、山や谷の土砂が大雨などでくずれ、ものすごい勢いで流れてくることです。

地すべり

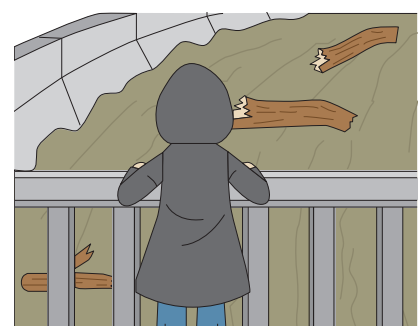


穏やかな斜面でも起こる
地すべりとは、斜面が地下水の影響などによって滑りやすい地層を境にズルズルと斜面下方に移動する現象です。

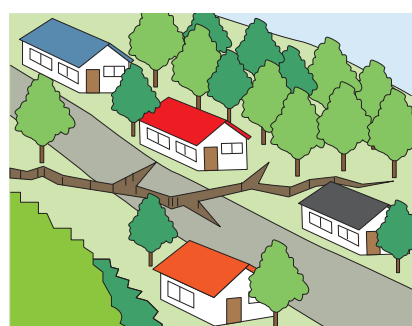
次のような前兆現象を感じたら速やかに避難するようにしましょう。



- がけから出る水が濁る。
- がけに亀裂が入る。
- 小石がパラパラ落ちてくる。
- がけから音がある。



- 山鳴りがする。
- 川が濁ったり、流木が混じりはじめる。
- 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。



- 地面にひび割れができる。
- 地面の一部が陥没したり、隆起したりする。
- 沢や井戸の水が濁る。
- 斜面から水がふき出す。

注意！土砂災害警戒情報

大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、土砂災害発生の危険性が高まったときに、気象庁と熊本県が共同で発表する情報です。土砂災害警戒情報が発表された時は「**いつ土砂災害が起きてもおかしくない**」という非常に危険な状態です。

情報は市町村単位で発表されるので、住民のみなさんの自主避難の判断に活用できます。



土砂災害警戒情報が発表されたら

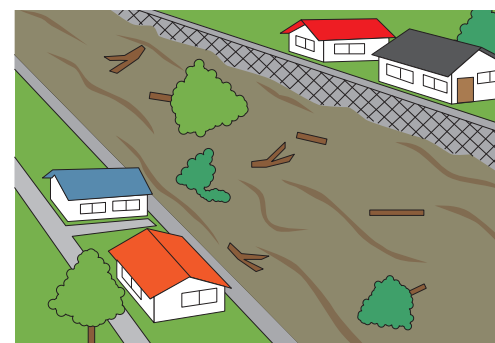
- マップの土砂災害警戒区域等の区域外への自主避難を判断してください。
- 苓北町が発表する避難情報に注意しましょう。
- 周囲の様子をよく観察し、前兆現象を見逃さないようにしましょう。

風水害について

近年、梅雨前線の停滞や台風の接近などを原因として、同じ場所に大量の雨を降らせる「集中豪雨」や、夏場などに大気の状態が不安定となって積乱雲が発達し、短時間に局地的に激しい雨を降らせる「局地的大雨(ゲリラ豪雨)」が発生するケースが増えています。大雨による災害発生に備え、気象情報や前兆現象に注意しておきましょう。

豪雨の危険性を知っておきましょう

短時間で危険な水位のおそれ



河川、用水路などは、激しい雨が降ることやまわりから雨が流れ込むことで、短時間で危険な状態となります。

排水能力を超える大雨



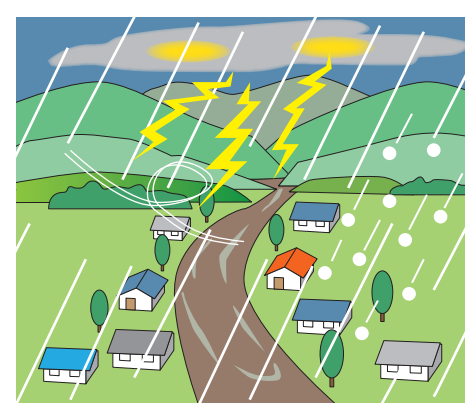
排水路・側溝の排水能力を超える豪雨によって、土地・建物等の浸水が発生する現象(内水はん濫)が頻発しています。

離れた場所の雨にも注意



自分のいる場所で強い雨が降ってなくても、上流で降った雨が流れてきて、危険な状態になる場合があります。

次のような前兆現象を感じたら速やかに避難するようにしましょう。



- 雷鳴や稲妻を確認したら建物内へ避難する。
- 大粒の雨やひょうが降り始めたら建物内へ避難する。
- 急に冷たい風が吹き始めたら注意する。
- 川の水かさが増えたり、濁ってきたらすぐ避難する。

活用しよう！ 気象庁のホームページ

気象庁HPの、「降水ナウキャスト」情報は最新状況から1時間先までの5分毎の降水の強さを予報します。

「レーダー・ナウキャスト(降水・雷・竜巻)」
<http://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>

警戒レベルと防災気象情報

警戒レベル	避難情報(苓北町が発令)	住民が取るべき行動	気象庁の情報
5	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	命の危険 直ちに安全確保! すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	大雨特別警報 氾濫発生情報

〈警戒レベル4までに必ず避難〉

4	避難指示	危険な場所から全員避難 ・速やかに避難先へ避難する ・避難先への移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難する	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報
3	高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者の方、障がいのある方等とその支援者の方は危険な場所から避難し、それ以外の人は、避難準備、または命の危険を感じたら自主的に避難を開始する	大雨・洪水警報 氾濫警戒情報
2	—	・避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認する	大雨・洪水注意報 氾濫注意情報
1	—	・防災気象情報等の最新情報に注意するなど、災害への心構えを高める	早期注意情報 (警報級の可能性)

地震について

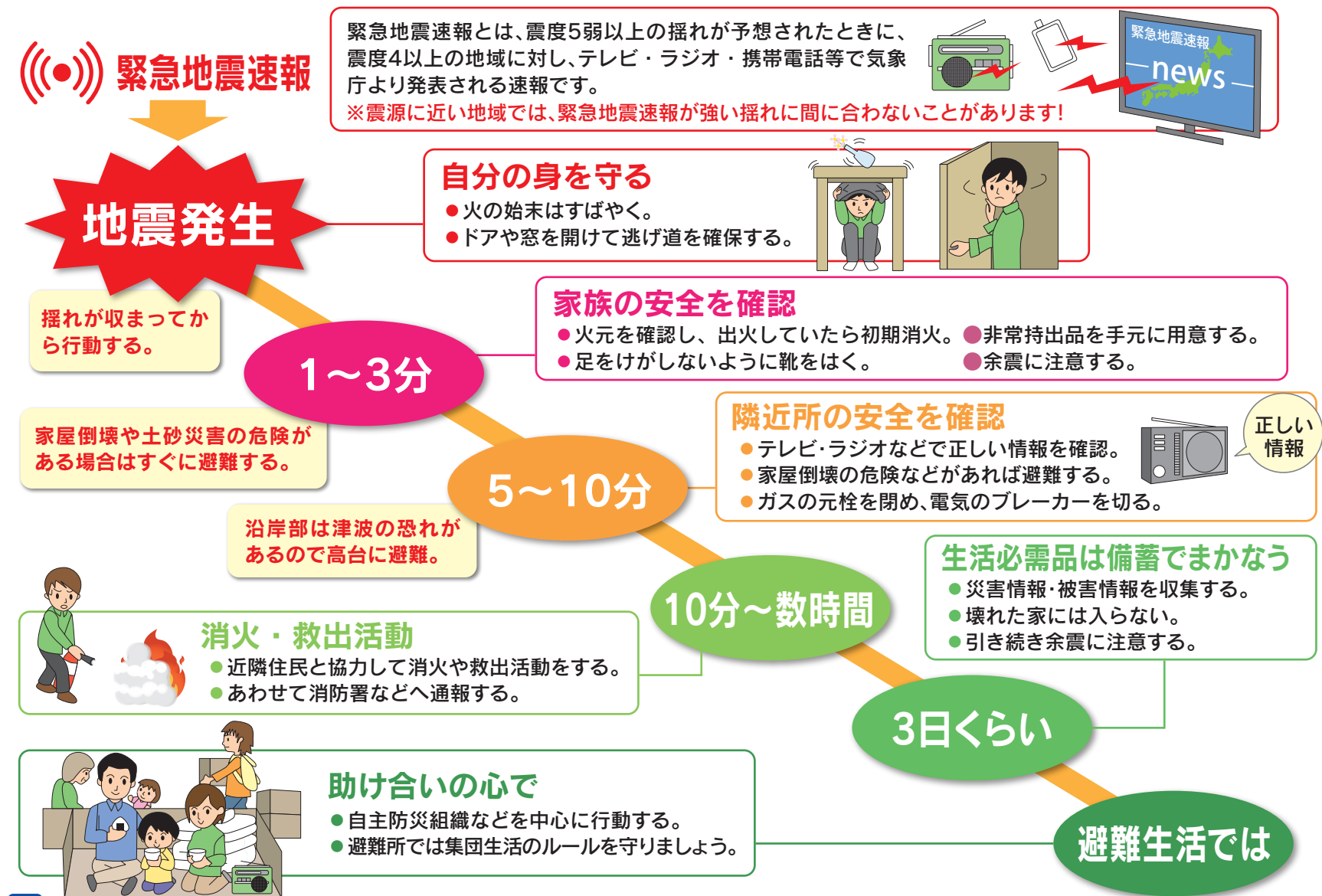
日頃からの安全対策

阪神・淡路大震災で犠牲になった方々の約8割以上は家屋の倒壊や倒れてきた家具などによる圧死や窒息死、その後の火災によるものでした。地震による被害を軽減するために、家具の転倒防止や配置の検討を行いましょ。

<h3>耐震金具の活用</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 転倒防止金具・ポール・家具や室内の状況によって使い分ける。 ● 重ね止用金具 ● 扉・引き出し開放防止金具 ● テレビや水槽はできるだけ低い位置に固定しておく。 	<h3>家具の配置に注意</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 寝室には倒れそうな家具を置かないようにする。 ● 就寝場所に家具が倒れてこないように配置する。 ● 出入口や通路には、なるべく荷物を置かないようにする。 	<h3>照明器具の補強を</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 天井に直接取り付けタイプの照明が安全。 ● 吊り下げ式の場合は、鎖と金具を使って数か所とめて補強する。 ● 蛍光灯は蛍光管の落下を防止するため、両端を耐熱テープでとめておく。 	<h3>ガラスの飛散防止対策</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 割れたガラスが飛び散るのを防ぐため、ガラス飛散防止フィルムをはる。 ● 食器棚や額縁などに使われるガラスにも飛散防止フィルムをはっておく。
--	--	---	--

地震が起きたらどうする

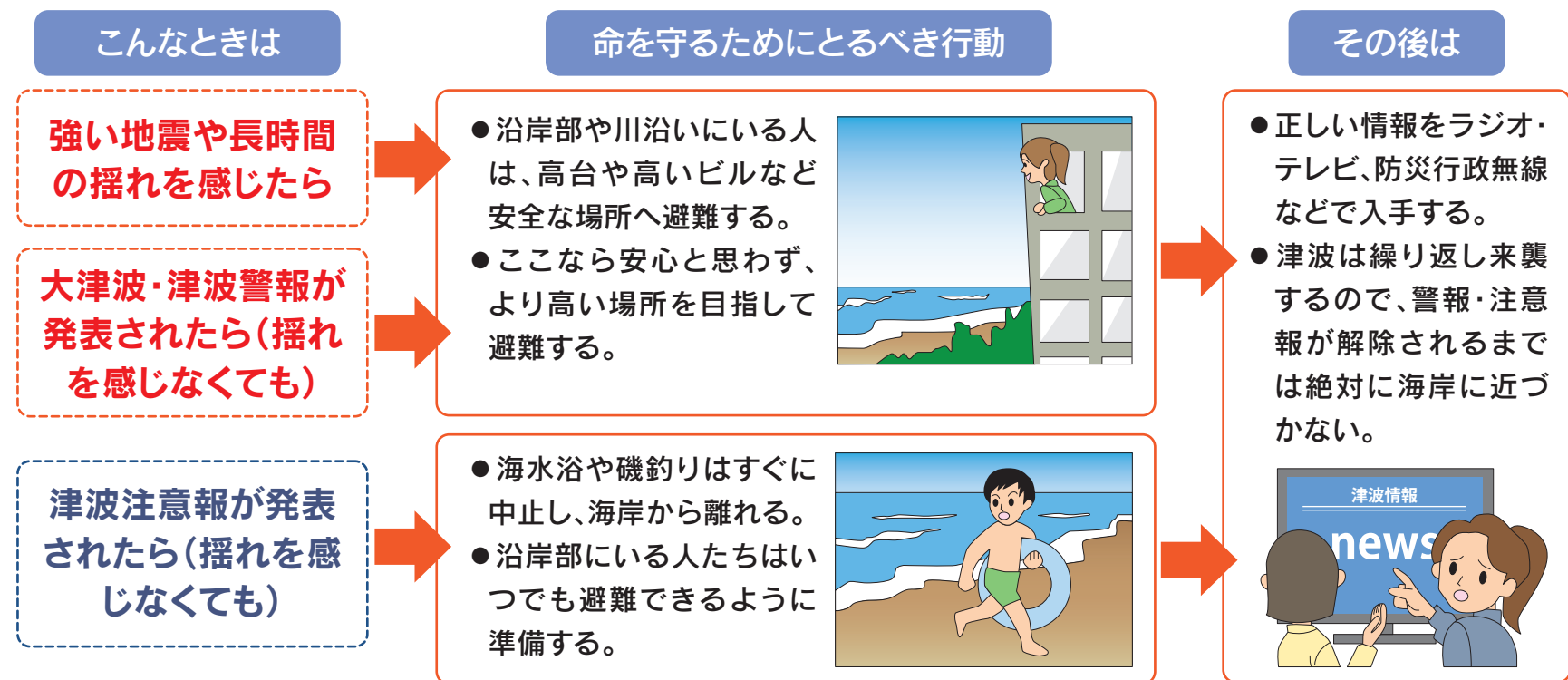
地震はいつ起こるか分かりません。地震が発生したとき、被害を最小限におさえるには、一人ひとりがあわてずに適切な行動をすることが極めて重要です。



津波について

津波から身を守るポイント

津波は地震発生後、あつという間にやってくる場合があります。津波が到達するおそれがある場所にいるときは、できるだけ早く、高いところに逃げる必要があります。津波避難のポイントを知っておきましょう。



高潮について

高潮が発生する3つの要因と注意すべき点

高潮は、台風や発達した低気圧により波浪が発生して、海面の高さが異常に高くなる現象です。気象情報に注意しながら、早めの避難を心掛けましょう。

- 【3つの要因】**
- 1 気圧低下による海面の吸い上げ
 - 2 風による吹き寄せ
 - 3 波浪による海面上昇
- 【注意すべき点】**
- 満潮時、特に大潮期に発生しやすい。
 - 台風の接近時には、高潮の発生に警戒する。
 - 大雨や暴風により避難が困難になることがある。
 - 浸水時には、暴風雨のなか、濁流と漂流物で歩行が困難になる。
 - 浸水時に自動車での避難することは大変危険である。

